

～公共交通トピックス～

内陸線支援運動の輪が広がっています!引き続きご協力をお願いします!

本年度、市内各種団体等による積極的な乗車促進運動は、全県を巻き込んだ運動へと広がりを見せています。その結果、上半期の実績では前年度比、乗車人員で6%増(1.4万人増)、収入でも15%増(1,500万円増)で推移しています。一方で、原油高騰により運行経費も増していることから、冬季に向けてさらにねばり強い運動が求められるところです。



県内各地の小中学校や幼・保育園による、内陸線を活用した野外学習会や遠足、各種団体の研修会や親睦会などの利活用が多く見られます。



昨年度、桜木内小学校児童が総合学習で制作したPRポスターです。



秋田内陸縦貫鉄道活用促進協議会(仙北市・北秋田市商工会)では、「内陸沿線紅葉ウォーキング」を企画し、250名が参加しました。さわやかな秋空のもと、秋の味覚やマタギ太鼓などを堪能しました。



秋田内陸線を守る会(鈴木定平会長)をはじめ各支援団体では、道の駅、JR駅や産業祭等で内陸線の存続や魅力をPRしています。

7月から市職員18名が定期通勤(一時時差出勤を試用)を開始しています。



地域コミュニティづくりや介護予防を目的として角館町5地区の「かたるべ会」(仙北市社会福祉協議会ふれあいいきいきサロン事業)では、延べ350名が車窓の紅葉を楽しみながら、健康講座など親睦を深めました。初めて乗車した参加者も多く、沿線地域の魅力を再発見していたようです。



11月22～23日、首都圏文化人による応援ツアーが企画され、橋本五郎さん(ジャーナリスト)と、山王丸和恵さん(テレビプロデューサー)を囲んで、内陸線の魅力を語りあいました。



過疎地有償ボランティア輸送が西木町桜木内地域でスタート

人口減少や高齢化が進む過疎地域で高齢者等の移動手段を確保するため、一定の要件のもとで自家用車を用いた有償輸送が認められています。11月からNPO法人ハートまろんマイカー仙北(浅利則夫代表 会員10名)が移送サービスを開始しました。

サービス内容は、60歳以上の方や通院者・障害者等を対象に、西木町桜木内及び上桜木内地区において自宅から最寄りの駅又はバス停までの区間(上桜木内地区内にある区間制限なし)を移送するもので、比較的低料金で利用することができます。過疎地域における新しい生活の足の形態として、利用者から期待が寄せられています。

■問合せ:NPO法人ハートまろんマイカー仙北 代表理事 浅利則夫 TEL080(6020)7490

秋田内陸地域公共交通連携協議会より

仙北市と北秋田市では、住民生活の足を確保するとともに地域活性化を図るため、鉄道や道路交通の連携による、効果的で効率的な公共交通システムを目指し、今年度内に「地域公共交通総合連携計画」を策定することとしています。

市内では、今後、これに必要な交通実態や利用需要調査などが行われます。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

■問合せ:仙北市企画政策課 TEL(43)1112



羽後交通よりバス運賃改定のお知らせ

12月1日から一部区間の乗合バス運賃を、昨今の原油高騰等による厳しい環境から平均1.7%改定することになりました。ただし、ご利用区間によっては、運賃額に変更がない場合もありますので、弊社のこうした事情をご理解いただき、引き続きご利用くださるようお願いいたします。

■問合せ:角館営業所TEL(54)2202 田沢湖営業所TEL(43)1511